

来たらいいっしょ 丘珠空港

札幌飛行場(丘珠空港)を核とした観光交流促進プログラム



平成18年3月31日
丘珠空港利用促進協議会

- 目 次 -

1 . 観光交流促進プログラム策定の目的	・ ・ ・ ・ ・ 1
2 . 丘珠空港の概要	・ ・ ・ ・ ・ 1
3 . 地域の観光交流戦略	
(1) ビジット・ジャパン・キャンペーン地方連携事業	・ ・ ・ ・ ・ 3
(2) 北海道の取組み	・ ・ ・ ・ ・ 4
(3) 札幌市の取組み	・ ・ ・ ・ ・ 5
(4) 北海道観光戦略	・ ・ ・ ・ ・ 6
(5) 観光産業活性化プログラム	・ ・ ・ ・ ・ 6
(6) 観光大陸北海道の形成	・ ・ ・ ・ ・ 7
4 . 観光交流促進に丘珠空港が果たす役割	・ ・ ・ ・ ・ 8
5 . 丘珠空港に求められる取組み（実施メニュー案）	
(1) 空港における航空サービスの向上	・ ・ ・ ・ ・ 9
(2) 空港アクセスの充実	・ ・ ・ ・ ・ 11
(3) 情報化の推進	・ ・ ・ ・ ・ 12
(4) ユニバーサルデザインの推進	・ ・ ・ ・ ・ 13
(5) 空港を核とした地域づくり・観光交流の促進	・ ・ ・ ・ ・ 14
6 . プログラム推進体制	・ ・ ・ ・ ・ 16

丘珠空港を核とした観光交流促進プログラム

平成18年3月31日
丘珠空港利用促進協議会

1. 観光交流促進プログラム策定の目的

丘珠空港(札幌飛行場)は、広域分散型の都市形成となっている北海道において、道内各空港と直結する拠点空港として重要な役割を果たしている。北海道の自立と発展に向けては、国内外を問わず観光の誘致が重要な施策であり、航空機の安定運航・旅客の利便性向上などの点から、改善すべき点もあると思われる。

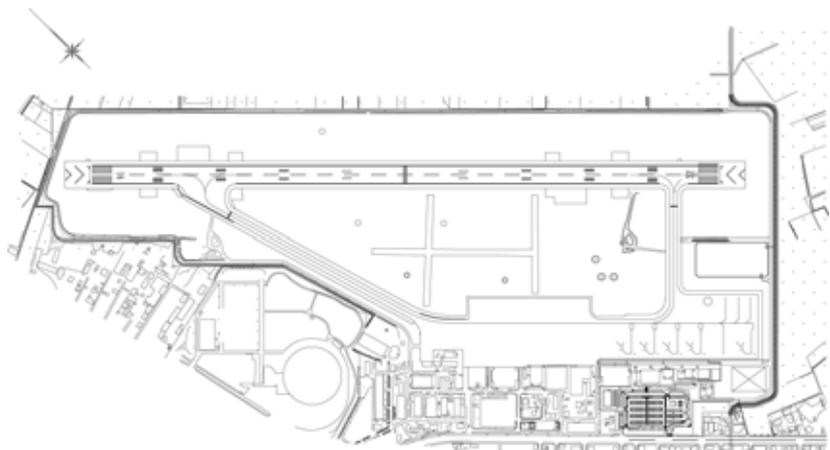
本プログラムは、関係者が連携を取りつつ、観光交流促進のための取組みを総合的に推進することを目的としてまとめたものである。

2. 丘珠空港の概要

《丘珠空港の沿革、整備概要》

丘珠空港は、昭和17年に旧陸軍が用地を買収して飛行場(滑走路1,000m)を設置したことに始まり、昭和29年に陸上自衛隊が移駐、のち女満別空港への民間航空路の開設を経て、昭和36年には防衛庁と運輸省の共用飛行場として供用が開始された。その後、道内・外の各都市と航路を開設、昭和42年には滑走路長を1,000mから1,400mに延長、平成16年にはYS-11型機の退役に伴うDASH-8就航に向け1,500mへ延長された。

現在は、道内主要5都市と定期航路を結び北海道の経済発展に重要な役割を担っているほか、防災・消防・警察等のヘリコプターの常駐する救難・防災の拠点基地として、また、事業用小型機の常駐空港として幅広く利用されている。



概況

設置管理者 防衛庁

位置 N43°07'03"

E141°22'53"

標高 8.0m

面積 102.5ha

着陸帯 1,620m×300m(芝)

滑走路 1,500m×45m

エプロン 38,440㎡ 中型機5 小型双発4 小型単発18 回転翼1(AC)

駐車場 14,067㎡ 360台

ターミナルビル 3,515㎡

無線施設 NDB、VOR / DME等

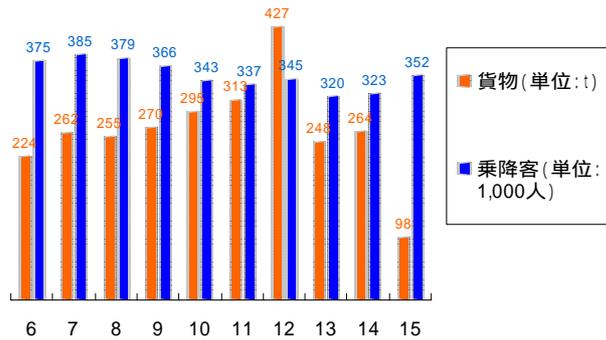
運用時間 7:30~20:30(13時間)

沿革

昭和17年 9月	旧陸軍飛行場設置
昭和21年～25年	米軍使用
昭和29年 4月	陸上自衛隊移駐
昭和31年 6月	北日本航空が運航開始
昭和36年11月	公共用飛行場に指定
昭和39年12月	ターミナルビル完成
昭和41年 7月	全日空が運航開始
昭和42年11月	滑走路延長1,000m 1,400m
昭和49年 8月	日本近距離航空が発足し運航開始
平成 4年 2月	新ターミナルビル完成
平成16年 3月	滑走路1,500m供用開始

《丘珠空港の利用実績》

平成15年の旅客数は352千人で、ここ数年は30万人台を継続している。また、路線は函館、稚内、中標津、女満別、釧路の5都市をネットワークし、拠点としても重要な役割を果たしている。



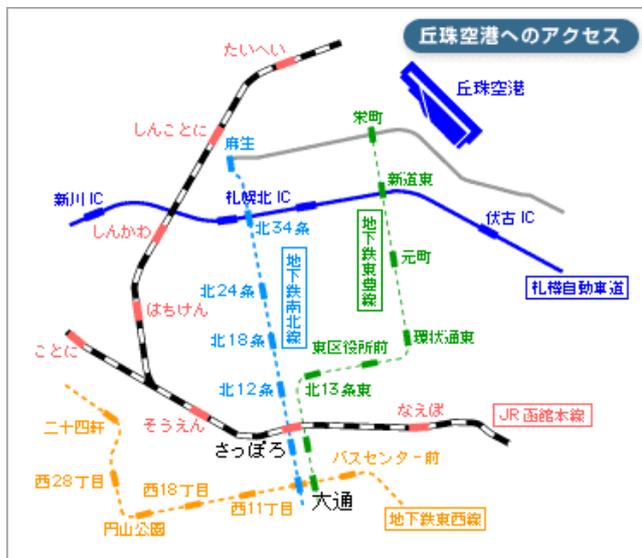
《丘珠空港の立地条件》

丘珠空港は、北海道の中心都市札幌の北東部にあり、市内中心部から直線距離で約6km、車で約20分の距離に位置している。一方、札幌市は人口188万人を擁する政令指定都市であり、北海道の人口の約1/3を占め、北海道の政治、経済、文化の中心となっており、利用者にとって非常に利便性の高い空港である。また、石狩湾新港から札幌市を經由し苫小牧港湾へと続く経済の大動脈に位置することから、道内各地へのアクセスも充実している。

都心からの交通アクセス

空港連絡バス	: J R 札幌駅	空港	約30分
地下鉄・路線バス	: 地下鉄 東豊線さっぽろ駅	東豊線栄町駅	約11分
	: 路線バス 東豊線栄町駅	空港	約5分
タクシー	: J R 札幌駅	空港	約20分

(位置図)



3. 地域の観光交流戦略

北海道及び地元札幌市などの観光交流促進のために、官民が連携・協力し様々な取り組みが行われている。

(1) ビジット・ジャパン・キャンペーン地方連携事業

ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)地方連携事業



政府では、2010年までに訪日外国人旅行客を1千万人に倍増することを目標に、平成15年度よりビジット・ジャパン・キャンペーンを実施している。北海道運輸局においても自治体や観光関連団体等とともに地方連携事業を実施し、海外客誘致活動を積極的に展開している。

事業の概要（平成17年度）

ウエルカム・ホッカイドウ事業

「日韓友情年2005」の認定事業である札幌交響楽団の韓国公演に連動し、北海道の観光名所をPR。

ソウル市において韓国内の財界人、有識者、旅行業界関係者を招いてのレセプションを開催し、日韓両国の友好を図るほか、地元新聞社紙面などで韓国一般市民へ観光誘致事業を周知。

北海道観光ビジネス・フォーラム

VJC北海道のシンボル事業として、平成15年度、平成16年度と東アジア市場を対象に開催し、関係者から非常に高い評価を得た「北海道観光ビジネス・フォーラム」を平成16年度も招聘した中国に加え、シンガポール・タイ・北米の旅行エージェント等を招請して開催。（平成17年8月26日）



観光プレゼンテーション



商談会

中国向け集中PR事業

平成17年2月、8月に開催した「北海道観光ビジネス・フォーラム」のフォローアップとして、中国において、一般消費者向けに「テレビCM（広州テレビ台、南方テレビ台）」、「テレビ番組再放送（北京テレビ台）」、「新聞共同広告（深セン特区報）」を集中的に実施し、冬季北海道への誘客をはかる。



テレビCM



新聞共同広告

写真は北海道運輸局の提供

(2)北海道の取組み

北海道観光の課題

地域資源を活用した新たな観光の魅力の創出
効果的な観光プロモーションと情報発信
外国人観光客など多様なニーズに対応した受入体制の整備
他産業との連携による地域への経済波及効果の増大

施策の展開

観光地づくり

- ・地元食材を活用した新メニューの開発支援
- ・体験型ツーリズムの事業化促進
- ・新たな花観光ルートの形成
- ・グリーン・ツーリズムの推進 など

観光プロモーション

- ・効果的な国内宣伝誘致活動（花、季節キャンペーン、圏域キャンペーンなど）
- ・東アジアを中心とする海外プロモーションの展開 など

観光振興に向けての基盤整備

- ・観光情報案内機能の充実
- ・道路・空港・景観・C I Q機能の整備促進

観光事業者の競争力向上

- ・観光ホスピタリティの向上
- ・地域における産業間連携の促進



北海道庁庁舎（函館市） 中 札幌市

北海道観光のくにつくり行動計画

計画の位置づけ

「北海道観光のくにつくり条例」に基づき、道民や観光事業者、観光関係団体が観光振興を効果的に推進していくための行動指針を定め、道の観光振興施策を示すことにより、観光を総合的、計画的に推進していくための基本的事項や目標を明らかにしたもの（平成14年3月に策定）。

計画の期間

平成14年度から平成19年度までの6年間

計画の目標

- ・誰もが満足できる質の高い観光地をつくり、国内外の多くの方に何度でも北海道を訪れていただく
- ・観光振興により北海道経済の活性化を図る

行動指針

- 行動指針 自然環境を生かした取組の推進
- 行動指針 食を生かした魅力アップ
- 行動指針 あたたかく迎える受入体制の整備



アウトドアスポーツ（ラフティング） 札幌市

写真は、北海道HPより転載

(3) 札幌市の取組み

札幌観光の課題

- 来客数の増加と年間を通した安定的集客
- 集客交流資源の活用・新たな発掘
- ホスピタリティの充実
- コンベンション誘致・支援の強化
- 道内各市町村との連携

基本方針

世界の集客交流都市さっぽろの実現に向けて、札幌の基幹産業の一つである観光やコンベンションの一層の振興に努める。

道内各市町村との連携や市民・企業との協働により、まち全体で誘致・PRやホスピタリティにあふれるおもてなしを進めると共に、芸術や地域文化などのハード・ソフトの資産を集客交流資源として積極的に活用しながら、札幌独自の魅力づくり、情報発信を進め、将来目標として来客2,000万人を目指します。(現在は1,300万人程度で推移)



施策・事業の展開

集客交流都市としての魅力の発信

- ・芸術文化を活用したまちの魅力発信事業
- ・さっぽろフィルムコミッション事業
- ・都心にぎわいづくりづくり事業
- ・集客交流シティPRキャンペーン
(ビジュアルプロジェクト)
- ・国内観光プロモーション
- ・国際観光誘致事業
- ・東アジア都市間交流促進事業 など



J R 札幌駅

ホスピタリティ向上の推進

- ・集客交流シティPRキャンペーン(おもてなしプロジェクト)
- ・ホスピタリティ育成支援事業

コンベンション誘致・支援の推進

- ・集客交流シティPRキャンペーン(コンベンションプロジェクト)

住んで快適、訪ねて楽しいまちづくりの推進

- ・藻岩山観光魅力アップ構想の推進
- ・定山溪温泉活性化
- ・国際化プラン推進事業

道内市町村と連携した魅力の発掘・アピール

- ・フードランド北海道開催
- ・丘珠空港整備と空港周辺のまちづくり事業



サッポロさとらんど



モエレ沼公園



石山緑地

写真は札幌市の提供

(4)北海道観光戦略

策定の経緯

北海道は、これまで豊かな観光資源を生かし、有数の観光地として成長してきた。しかし、激化する観光地間の競争に打ち勝って、北海道観光が今後一層発展していくためには、観光にかかる地域の基盤を整備し、多様で個性的な観光の魅力を高め、ホスピタリティあふれる観光地を形成していくことが不可欠である。

北海道観光の競争力強化を官民一体となって推進していくため、観光分野にかかわる行政機関や民間団体等のトップが一堂に会して「北海道観光サミット」を開催（平成17年5月）するとともに、サミットでの決議を受けて、観光事業者や関係団体、行政機関などオール北海道で設置した「北海道観光戦略会議」において、北海道観光の課題や今後の観光戦略について議論を深め、効果的な施策や取組を推進するため「北海道観光戦略」をとりまとめた。（平成18年3月）

観光戦略の位置づけ

この戦略は、観光事業者や観光関係団体、経済関係団体、行政機関等が、認識の共有を図り、広範囲に連携し、それぞれの役割のもと、効果的な施策や取組を進めるための重点施策や、先導的、中核的な事業、並びに、統一性をもって広域的に取り組む必要があるプロジェクトなどを定めたもの。

推進期間

平成18年度から概ね3か年程度とする。

推進主体

観光事業者、観光関係団体、経済関係団体、行政機関、道民等

観光戦略

北海道観光が抱えている問題の解決に向けて、「基盤」、「地域」、「展開」という発展の段階に沿って、5つの「戦略の柱」、10の「重点施策の視点」、29の「展開施策」を観光戦略として体系化した。

このうち、先導的、中核的な事業、並びに、統一性を持って広域的に取り組む必要がある事業をプロジェクトとして展開する。

11のプロジェクトは、それぞれ関係する実施主体を中心として、プロジェクトの目標に向けて、効果的・効率的に展開していく。

(5)観光産業活性化プログラム

プログラムのねらい

観光ベンチャー等、多様な観光ビジネスの創出により北海道の観光産業の高付加価値化を目指し、北海道経済産業局が中心となり、北海道運輸局、北海道開発、北海道及び経済界等と連携を図りつつ、北海道観光産業の活性化に向けた様々な協力・支援を行う。

具体的取組み

観光ベンチャー創出の促進 ～集積効果による集客力向上～

- ・観光ベンチャービジネスの成長支援
- ・観光関連支援機関との連携・ネットワークの強化
- ・地域での観光産業の活性化に係るムーブメントの醸成

地域連携、事業連携の促進 ～強みを活かした相乗効果～

- ・広域圏における観光経済効果の分析
- ・ビジネスアライアンス形成の促進

観光分野の人材育成の推進 ～人材によるイノベーション促進～

- ・高等教育機関等における高度な観光経営人材育成の取組み支援
- ・観光事業の専門人材育成の支援

(6) 観光大陸北海道の形成

社会資本整備に係る北海道の将来の姿

事業分野別計画(道路、交通安全施設、空港、港湾、都市公園、下水道、治水、急傾斜地、海岸)を一本化し、平成15年10月に閣議決定された社会資本整備重点計画を踏まえ、北海道ブロックの現状と課題、目指すべき将来の姿及びその実現に向けた重点事項をとりまとめた「社会資本整備に係る北海道の将来の姿」を策定。

恵まれた資源を活かした観光大陸北海道の形成

上記の中の大きな柱のひとつとして「観光大陸北海道の形成」が掲げられており、観光交流の促進に向けて社会資本整備に関連した様々な施策に取り組むこととしている。

主要施策

魅力的な美しい沿道景観の形成や、歴史的な建造物・街並み景観の保存、美しい田園風景づくりなど、地域の風土に根ざした新たな観光空間の創造を推進

- ・シーニックバイウェイの推進
- ・街並み環境整備事業

河川やダムをはじめとした水辺空間の多面的利用を可能とする観光機能の向上、海と気軽にふれあえ親しみやすい良好なウォーターフロント空間の形成

- ・港湾の水質及び悪臭等を改善するシーブルー事業
- ・河川環境整備事業

- ・海岸事業(高潮対策、浸食対策、海岸環境整備)
- ・ダム湖周辺の整備

公園の整備等により、体験型観光やアウトドア活動に必要なフィールドの提供を推進

- ・オートキャンプ対応型の公園整備
- ・自然体験型の公園整備

- ・エコミュージアム整備の支援

国内外の観光客の利便性向上を図るため、空港、港湾等の機能強化を推進

- ・旅客船等に対応した埠頭の整備
- ・滑走路延長、ターミナル拡張等の空港整備
- ・空港の質的充実に係る整備

効率的な観光拠点間ネットワークや情報提供システムの構築を推進し、観光振興に資する地域、情報、人のネットワーク化

- ・高規格幹線道路、地域高規格道路の整備
- ・一般国道及び地方道の整備
- ・街路の整備
- ・観光案内、情報提供システムの構築

地域協働プロジェクト(観光大陸北海道の形成にも資する取組み例)

北海道開発局等と地域の人々が協働して、活気ある住みやすく北海道らしい地域社会を実現するために、平成16年度から行っている取り組みであり、その中でも「北海道観光の魅力UP」は重要なテーマのひとつとなっている。

- ・北海道遺産「天塩川」の活用
- ・土木遺産「小樽北防波堤」の活用
- ・花いっぱい道「千歳エアポート花ロード」
- ・札幌近郊「花めぐり」スタンプラリー
- ・札幌市大通りでの「除雪見学会」の開催
- ・「みなとウォークラリー」
- ・「わが村は美しく～北海道」
- ・エコミュージアム統一サイン
- ・旭山動物園へのアクセス向上
- ・阿寒湖温泉交通システム改善
- ・釧路港舟漕ぎ大会
- ・ビューポイント駐車場の整備
- ・フラワーガイドボランティア
- ・バスガイドさんと協働による「道路ガイドブック」づくり



エアポート花ロード(千歳空港)

など

4 . 観光交流促進に丘珠空港が果たす役割

北海道及び札幌等の観光に関する様々な地域戦略・取組み等を踏まえ、観光交流を促進させるため丘珠空港が果たすべき役割及び課題等を整理した。

(1) 空港における航空サービスの向上

就航率の向上
定時運航の確保に向けた除雪効率化
ターミナルビルの混雑解消
路線の通年化及び新規開拓
駐車場の混雑解消
利用者サービスの向上・意見の反映

(2) 空港アクセスの充実

アクセスの定時性確保・時間短縮
公共交通アクセスの充実
道外路線網との連絡

(3) 情報化の推進

運航情報の周知方法の改善
アクセス情報の周知方法の改善
観光情報の提供

(4) ユニバーサルデザインの推進

バリアフリー化の推進
ターミナル内の案内表示等の改善
外国語表示の充実

(5) 空港を核とした地域づくり・観光交流の促進

空港周辺環境整備
近隣の観光交流拠点との連携
PRイベント等の開催
観光客利用の促進
市民参加型の空港利用促進

5 . 丘珠空港に求められる取組み（実施メニュー案）

本表は、課題として整理された項目ごとに、求められる取組みを実施メニュー案として整理している。（一部、既に実施中のものも含んでいる）

今後、空港関係者がここに整理されたメニュー案等を参考に、連携して航空サービスの質の向上などに取組み、丘珠空港を観光交流及び地域活性化のために活用し、ひいては丘珠空港の利用促進へとつなげて行くことが重要と考える。

(1) 空港における航空サービスの向上

就航率の向上

取組み内容・目標	・ 進入方式の高質化の検討 ・ 運用時間の延長の検討
取組みが求められる理由	冬期間の降雪、吹雪による視界不良のため冬期就航率が低い状況にあることから、欠航の解消及び定時性の向上が求められている。
実施スケジュール	平成18年～
予想される効果	就航率向上等による利便性の向上及び利用客の増加
取組み主体	(主務機関) 東京航空局・北海道開発局 (関係機関) 航空会社・北海道・札幌市・(陸上自衛隊)

定時運航の確保に向けた除雪効率化

取組み内容・目標	・ 除雪時間の短縮、効率化
取組みが求められる理由	冬期間の大雪時等において、除雪による遅延・欠航を軽減することが求められている。
実施スケジュール	平成18年～
予想される効果	定時性確保等による利便性の向上及び利用客の増加
取組み主体	(主務機関) (陸上自衛隊)・東京航空局 (関係機関) 航空会社

ターミナルビルの混雑解消

取組み内容・目標	・ 出発ロビー、搭乗待合室等の再配置の検討
取組みが求められる理由	利用客の増加に伴うターミナルビル内の混雑を解消することが求められている。
実施スケジュール	平成18年～
予想される効果	利便性の向上による利用客の増加
取組み主体	(主務機関) 空港ビル (関係機関) 航空会社・北海道・札幌市

路線の通年化及び新規開拓

取組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・季節運航路線の通年化 ・新規路線の開拓 ・冬期における便数維持のための対策
取組みが求められる理由	利用客及び地域のニーズに合わせ、季節運航路線の通年化や新規路線開設、冬期便数制限の解消を図り、道内ネットワークの充実による利便性の向上が求められている。
実施スケジュール	平成18年～
予想される効果	利便性の向上による利用客の増加
取組み主体	(主務機関) 航空会社・東京航空局 (関係機関) 北海道・札幌市

駐車場の混雑解消

取組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車スペースの拡張の検討(立体化含む) ・従業員駐車場の確保の検討 ・有料化の検討
取組みが求められる理由	利用客の増加及び冬期堆雪場の確保等のため、駐車場拡張(または立体駐車場化)による駐車可能台数の増加、空港関係者等の専用駐車場設置などにより、混雑を解消させることが求められている。また、関連して、現在は無料である駐車場料金を有料にすることの検討も必要と考えられる。
実施スケジュール	平成18年～
予想される効果	利便性の向上による利用客の増加、維持管理の効率化
取組み主体	(主務機関) 東京航空局・北海道開発局 (関係機関) 空港ビル・航空会社

利用者サービスの向上及び意見の反映

取組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス施設・設備(授乳室、パソコンコーナー等)の改善 ・喫煙対策(完全分煙化等) ・景観等の向上(花壇等) ・利用者の意見聴取
取組みが求められる理由	空港の利便性・快適性を向上させるため、利用者等のニーズの把握や、航空サービスの質の向上が求められている。
実施スケジュール	平成17年～
予想される効果	ニーズを反映したサービス提供による利便性・快適性の向上
取組み主体	(主務機関) 空港ビル・航空会社 (関係機関) 東京航空局

(2)空港アクセスの充実

アクセス定時性確保・時間短縮

取組み内容・目標	・ アクセス道路の渋滞、冬期遅延の解消
取組みが求められる理由	道路管理の連携による渋滞緩和や除雪対策により、空港アクセスの定時性や時間短縮を図り、利用者の利便性を向上させることが求められている。
実施スケジュール	平成18年～
予想される効果	利用者のニーズに合った施設整備による利便性の向上
取組み主体	(主務機関) 札幌市・北海道開発局 (関係機関) 北海道運輸局

公共交通アクセスの充実

取組み内容・目標	・ 空港利用者のアクセスに関する実態把握や意見聴取 ・ 地下鉄とバスの乗り継ぎの円滑化 ・ バス経路及び本数の増加
取組みが求められる理由	駐車場の狭隘化解消とともに、公共交通機関の利用を促進するため、バスの路線充実や地下鉄との乗り継ぎの円滑化等が求められている。
実施スケジュール	平成16年～
予想される効果	利便性向上による利用客の増加
取組み主体	(主務機関) 北海道運輸局・札幌市 (関係機関) 東京航空局・空港ビル

道外路線網との連絡

取組み内容・目標	・ 新千歳空港との直行バスの検討
取組みが求められる理由	空港間を連絡バスで直結することによる利便性向上及び効果の検討、利用者ニーズや需要の把握等が求められている。
実施スケジュール	平成18年～
予想される効果	利用者のニーズに合った対応による利用客の増加
取組み主体	(主務機関) 航空会社 (関係機関) 北海道運輸局・北海道・札幌市

(3) 情報化の推進

運航情報の周知方法の改善

取組み内容・目標	・ インターネット等による航空機運航情報提供の検討
取組みが求められる理由	パソコンおよび携帯電話、カーナビ等によるインターネットを利用し、航空機の運航状況をリアルタイムで提供することで、利用者の利便性を向上させることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	利用者の利便性向上による利用客の増加
取組み主体	(主務機関) 空港ビル・航空会社 (関係機関)

アクセス情報の周知方法の改善

取組み内容・目標	・ 駐車場の混雑状況情報の提供 ・ 連絡バス及び地下鉄の運行情報提供の充実
取組みが求められる理由	空港利用者の利便性を向上させるため、駐車場の混雑状況及び公共交通機関の運行情報等をインターネットによる情報提供で充実させることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	最新情報の提供等による利用者の利便性向上
取組み主体	(主務機関) 空港ビル・東京航空局・札幌市 (関係機関) 北海道運輸局

観光情報の提供

取組み内容・目標	・ 到着ロビー等での札幌周辺の観光案内等の配付 ・ 出発ロビー、搭乗待合室等での就航先空港の地域周辺の観光案内等の配布 ・ インターネット等による空港周辺観光情報の提供
取組みが求められる理由	空港利用者に対し、観光（丘珠及び就航先空港）の情報を提供しサービスの向上を図り、観光需要を増進させることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	利用者サービスの向上による利用客の増加
取組み主体	(主務機関) 空港ビル・札幌市・航空会社 (関係機関) 北海道運輸局・北海道

(4)ユニバーサルデザインの推進

バリアフリー化の推進

取組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナル施設のバリアフリー化の促進 ・歩道及び駐車場内へのルーフ設置 ・エプロン内通路のロードヒーティング化 ・駐車場等からターミナルへの視覚障がい者用施設の設置
取組みが求められる理由	身障者、幼児、高齢者を含む全ての利用者が利用しやすい施設とするため、空港全体のバリアフリー化を図ることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	利便性の向上による利用客の増加
取組み主体	(主務機関) 東京航空局・北海道開発局・空港ビル (関係機関) 航空会社

ターミナル内の案内表示等の改善

取組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ターミナルビル内の案内表示の改善 ・インターネット等による施設情報の提供
取組みが求められる理由	初めて訪れる利用者でも快適に施設を利用できるように、ターミナルビル内の案内表示について、全国的なマニュアルに合わせて、問題がある表示については改善が求められている。 また、バリアフリー化の状況等を含めた施設情報を提供することが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	利便性の向上による利用客の増加
取組み主体	(主務機関) 空港ビル・東京航空局 (関係機関) 航空会社・北海道開発局

外国語表示の充実

取組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・空港ビル及び公共交通機関における案内の外国語表記の充実 ・駐車場及びアクセス道路等における案内の外国語表記の充実
取組みが求められる理由	外国人旅行者の利便性およびホスピタリティー向上のため、各種施設における案内表示の外国語表示をさらに充実させることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	外国人利用者の利便性の向上
取組み主体	(主務機関) 札幌市・空港ビル・北海道運輸局・北海道開発局 (関係機関) 東京航空局・北海道

(5) 空港を核とした地域づくり・観光交流の促進

空港周辺の環境整備

取組み内容・目標	・空港周辺への緑地等の整備
取組みが求められる理由	丘珠空港周辺の環境保全や地域の交流・憩いの場を形成するため、緑地等の空間整備が求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	緩衝緑地等としての効果、空港を中心として人々が参集
取組み主体	(主務機関) 札幌市 (関係機関) 北海道・東京航空局・(陸上自衛隊)

近隣の観光交流拠点との連携

取組み内容・目標	・空港に近接する公園等(「モエレ沼公園」、「サッポロさとらんど」、「百合が原公園」)との連携 ・空港と公園の相互利用のPR
取組みが求められる理由	周辺の観光交流拠点と丘珠空港をリンクさせることによって、相互の利便性向上と利用促進が図られることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	相乗効果による空港及び公園利用者の増加
取組み主体	(主務機関) 札幌市・空港ビル・東京航空局 (関係機関) 北海道

PRイベント等の開催

取組み内容・目標	・空の日に合わせた交流イベントの開催 ・就航先地域のPR
取組みが求められる理由	札幌市内に位置する空港として、市民との交流や空港に対する理解を深めてもらう機会を設けることが求められている。また、就航先地域と連携した航空機利用の積極的なPRが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	積極的PRによる空港利用者の増加
取組み主体	(主務機関) 東京航空局・空港ビル・航空会社 (関係機関) 北海道・札幌市

観光客利用の促進

取組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・観光需要の発掘活動（広報・宣伝） ・就航先空港とリンクした観光客の誘致活動
取組みが求められる理由	ビジネス旅客の多い丘珠空港において、より一層の利用客増加のために観光需要を伸ばすための取組みが求められている。
実施スケジュール	平成17年度～
予想される効果	観光需要の発掘による利用客全体の増加
取組み主体	（主務機関）航空会社・空港ビル （関係機関）北海道・札幌市・北海道運輸局

市民参加型の空港利用促進

取組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民等と連携した良好な景観の創出 ・地域の文化、生活を感じることの出来る空港づくり
取組みが求められる理由	空港関係者のみならず広く市民等の参加を得て、利用者が好印象を持つ空港、地域住民も訪れたい空港づくりをすることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	利用者への好印象化、空港への地域住民の訪問増加
取組み主体	（主務機関）空港ビル・東京航空局・札幌市 （関係機関）北海道・北海道開発局

6 . プログラム推進体制

航空サービスは、単なる輸送手段としてのみならず、地域間交流の拡大、地域の振興等にとって極めて重要な役割を果たしている。

また、わが国あるいは北海道が目指している観光交流の促進においては、空港・航空輸送が重要な役割を担うべく期待されている。

今後、丘珠空港の関係者が、本プログラムの取り組みを協力・連携して積極的に推進し、「観光交流」をひとつのキーワードとして、丘珠空港の利用促進を図っていくことが重要であると考えられる。

- (1)本プログラムの推進にあたって
本プログラムを推進するため、丘珠空港利用促進協議会が中心となり、関係団体と連携して事業の推進を図る。
- (2)関係団体への協力要請
本プログラムを推進するため、丘珠利用促進協議会以外の関連する団体等に対し、積極的に協力を要請する。
- (3)本プログラム推進に向けた取り組み
本プログラムの推進に対し、一般市民等の理解と協力を得るため、丘珠空港利用促進協議会主催のイベント等を実施する。
- (4)本プログラムのフォローアップ
本プログラムの推進状況については、毎年丘珠空港利用促進協議会において、その実施状況を評価し、必要に応じ内容の見直しを行い、地域の観光交流を着実に促進させる。
- (5)プログラムの実施機関（丘珠空港利用促進協議会）

【国の機関】

- ・東京航空局
- ・北海道運輸局
- ・北海道開発局

【地方自治体】

- ・北海道
- ・札幌市

【関係事業者】

- ・札幌丘珠空港ビル(株)
- ・(株)エアーニッポンネットワーク
- ・(株)北海道エアシステム